

保健師からのメッセージ

一人ひとりの生命をお互いに大切にしよう



健康とわだ21

子どもは家庭の宝、社会の宝

子どもの生命を脅かす最大の敵が病気ではなく事故であることをご存じですか？
これまで事故は、偶発的で予防が困難と考えられがちでしたが、環境の改善などにより
予防できることが明らかになってきました。

子どもが置かれた環境を子どもの目線で見直そう ～こんな予防策があります～

誤飲

- ・乳幼児の口の中に入る危険性のあるものは床から1メートル以上ある場所にあげておく。
- ・飲みかけのジュースやお酒の缶を灰皿代わりにしない。



(たばこの誤飲)

窒息

- ・仰向けに寝た姿勢や歩きながら食べ物を食べさせない。
(車や電車、飛行機での移動中は特に注意が必要)
- ・3歳まで、ピーナッツなどの乾いた豆類は控えさせる。
- ・乳幼児の食事中は、大人がそばにいて見守る。
- ・首などにひも状のものをかけて遊ばせない。



(窒息の原因となりうる食べ物)

おぼれ

- ・残り湯の習慣をやめる。
- ・乳幼児を浴室で1人にしない。
- ・洗濯機の水は終了後必ず抜く。
- ・洗濯機のふたをロックする。

やけど

- ・蛇口から出るお湯の温度設定は、50度以下にする。
- ・家庭内の熱源(アイロン、炊飯器など)は、子どもの手の届かないところに置く。
- ・ストーブなどの暖房器具には、柵を取り付ける。
- ・乳幼児のいる家庭では、テーブルクロスを使わない。

転倒・転落

- ・階段の入り口に柵をする。
- ・ベランダには踏み台となるものを置かない。



交通事故

- ・乳幼児の手をつないで歩く。
- ・チャイルドシートを正しく着用する。
- ・自転車ヘルメットをかぶらせる。

(予防策の例を掲載しました。各家庭にあった見直しが必要です。)

子どもへの安全教育・しつけだけでなく、家庭内の生活環境の改善、また交通事故については家庭だけでなく、地域や社会ぐるみの安全環境の改善が必要です。子どもの行動は予測しがたいもの、しかし子どもの命が奪われたり、取り返しのつかない大けがをせずにする環境を整えることが、今大人に求められています。